

北九州市若松区脇田海岸のマリノベーション計画の現状と展開に関する調査

九州産業大学 学生会員 鎌田 雅光
九州産業大学 正会員 奥菌 英明

1. はじめに

現在、ウォーターフロント計画は主として行政が中心となり、計画が進められている。本研究では、進行中の北九州市若松区マリノベーション計画に着目し、夏季海水浴利用客・地域住民にアンケートを実施し、行政側が主として進めている沿岸域開発計画に対しての印象・意見・要望等を把握し、今後のウォーターフロント計画における住民参加の重要性を提案しようとするものである。

2. マリノベーション計画の現状

マリノベーション計画では基本方針を ①生産性の高い漁場の実現②漁村環境の向上③海洋性レクリエーションと漁港の共存とし、平成8年に新脇田海水浴場とボードウォーク(遊歩道)、平成13年に海釣り桟橋・タイドプール(人工海浜)・芝生のイベント広場が完成した。今後は、平成15年度にフィッシャーマンズワーフ・サンセットロード・人工磯・集落の環境整備を予定している。



図-1 アンケート実施場所

3. 調査方法

平成14年8月上旬に、脇田海水浴場利用客216名に対し、マリノベーション計画に対する期待感をはじめとしたアンケートを実施した。また、平成14年11月中旬に、若松区安屋地域の住民160世帯に対し、計画に対するアンケート用紙を投函し同封の封筒で返答してもらい58世帯から回答を得た。脇田海水浴場でのアンケートは、利用するにあたり海岸整備の評価やマリノベーション計画の認知度・期待度を5から1の数値で評価してもらった。安屋地区の住民には、マリノベーション計画の認知度・期待度のほか、今後の予想される事項や計画に対する要望などを返答してもらった。その後、脇田漁業協同組合と北九州市経済局に、アンケート結果の印象や今後の計画に対する考え方などの見解を求めた。

4. 結果と考察

1) アンケート結果

図-2に計画の認知度、図-3に、交通アクセス整備・ボードウォーク整備・釣り桟橋・タイドプール・フィッシャーマンズワーフ・サンセットロード・緑地整備・離島への出発拠点・人工磯・マリナーナ計画・イベント企画の11項目に対する評価を示す。脇田海水浴場でのアンケートでは、計画に対する認知度は低いものの計画の内容に対しては期待感を非常に強く持っていた。図-4, 5に示すように、安屋地区の住民に対するアンケートでは地域の活性化には賛成の意見が多かったが、地域住民の計画の内容に対する評価は厳しく、夜間の騒音問題や迷惑駐車増加を心配する意見が特に多くあった。

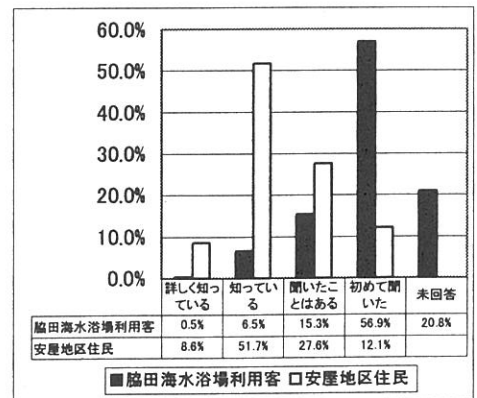


図-2 マリノベーション計画の認知度

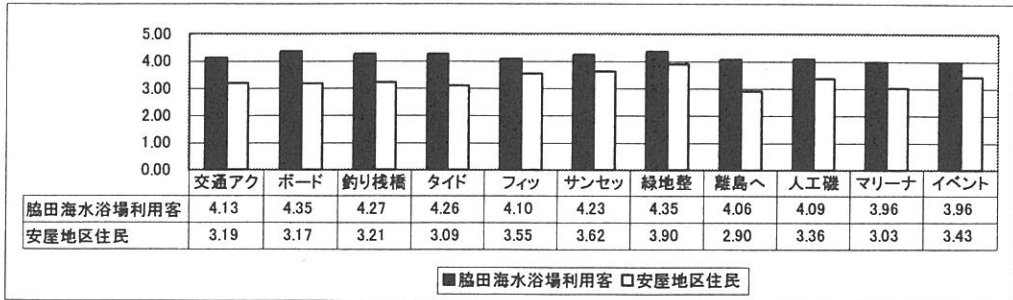


図 - 3 マリノバージョン計画に対する期待度（平均値）

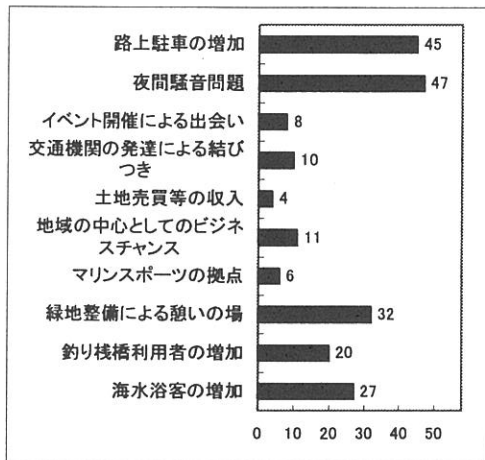


図 - 4 安屋地域住民の予想する現象（数）

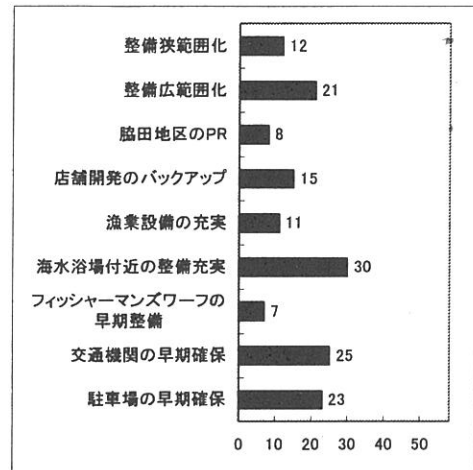


図 - 5 安屋地域住民の計画に対する要望（数）

2) 脳田漁業協同組合の見解

体験型漁業や親水性を高めるレジャーなど実施したい事項はあるが、宿泊施設がないこと・駐車場の不足・漁業収益の不足などで実行に移りにくい。またアンケートからも浮かび上がった問題に対しては、漁業組合だけでは解決するには困難である。さまざまな問題に対して対応できる組織作りが必要だ、との見解を得た。

3) 北九州市経済局の見解

フィッシャーマンズワープの開発事業者を募集する際に、マリノバージョン計画の趣旨に基づくことと漁業組合等との意見交換の機会を設けることで、より地域性を考えた開発事業者に決定できるよう努めている。駐車場不足・夜間の騒音問題は市でも検討している。今後は漁港の方針や考え方を踏まえて、フィッシャーマンズワープ開発事業者も含めた新しい組織を発足させ、各々の問題に対して解決に努力したい、との見解を得た。

5. まとめ

アンケートにより、地域を訪れる利用者と迎え入れる地域住民の意識の違いが明確となった。マリノバージョン計画が進行しているにもかかわらず、地域と行政の間にはまだお互いの意見や考え方に隔たりを感じた。本研究で行ったアンケート調査のように、利用者や地域住民の意見を調査し、計画運営側に直に伝え把握する、といった機会を設けることが必要であると考えた。また、漁業協同組合・市経済局の見解にもあるように、地域住民・漁業者・民間事業者と行政の壁を越えた新しい組織作りを進め、あらゆる問題に対し協力して解決していこうという体制が必要であると考えた。